

2026 年 10 月 30 日

韓国・9月鉱工業生産も半導体をけん引役にした拡大が続く(Asia Weekly)

～半導体のほか、自動車・電装品、電気機械関連など外需が生産を押し上げる～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(TEL: 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

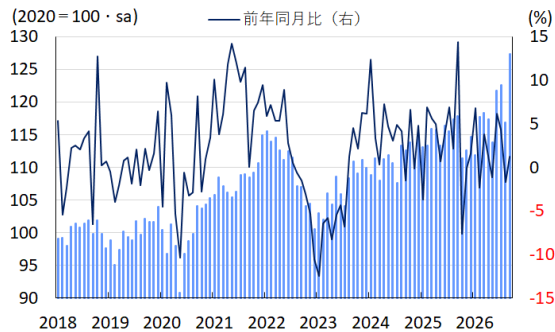
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
10/26(月)	(タイ)9月輸出(前年比)	+24.0%	+17.9%	+24.3%
	9月輸入(前年比)	+50.4%	+31.3%	+25.1%
	(シンガポール)9月製造業生産(前年比)	+3.4%	+6.6%	+15.4%
10/27(火)	(韓国)7-9月実質 GDP(前年比・速報値)	+3.4%	+3.0%	+3.7%
10/28(水)	(オーストラリア)7-9月消費者物価(前年比)	+3.9%	+3.9%	+4.0%
	(ニュージーランド)金融政策委員会(政策金利)	2.75%	3.00%	2.75%
	(タイ)金融政策委員会(政策金利)	1.00%	1.00%	1.00%
10/30(金)	(韓国)9月鉱工業生産(前年比)	+1.2%	+1.0%	▲1.7%
	(フィリピン)9月輸出(前年比)	+35.6%	--	+28.3%
	9月輸入(前年比)	+25.7%	--	+20.9%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国]～世界的な AI・半導体需要の旺盛さを背景に、外需関連産業を中心に生産拡大が続く～

30日に発表された9月の鉱工業生産は前年同月比+1.2%となり、前月(同▲1.7%)から2ヵ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。前月比も+9.0%と前月(同▲4.6%)から2ヵ月ぶりの拡大に転じており、持ち直しの動きを強めている。業種別では、世界的なAI(人工知能)・半導体関連需要の旺盛な動きを反映して半導体生産が大きく拡大しているほか、ストライキの終結などを受けて自動車生産も大幅な拡大に転じるなど、外需関連産業を中心に生産の持ち直しが進んでいる。一方、公共行政部門やサービス業、建設業などを含む全産業生産も前年同月比+1.1%、前月比+3.0%と持ち直しの動きを強めている。公共行政部門の生産は減少したものの、サービス業の生産は小幅ながら増加しているほか、建設業でも工事出来高が拡大するなど、幅広い分野で改善の動きがみられる。さらに、半導体需要の旺盛さを背景に半導体製造用機械などへの設備投資も拡大しており、外需関連産業の堅調さが国内の設備投資にも波及する動きがうかがえる。

図 1 KR 鉱工業生産の推移

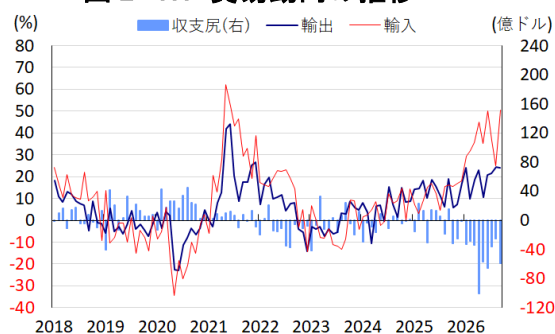


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[タイ]～AI・半導体需要の旺盛さで輸出拡大も、商品市況の上昇が輸入を押し上げ、貿易赤字は拡大～

26日に発表された9月の輸出額は前年同月比+24.0%となり、前月（同+24.3%）からわずかに伸びが鈍化した。ただし、当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヵ月ぶりの拡大に転じており、単月ベースの輸出額は過去最高を更新した。財別では、世界的なAI（人工知能）・半導体需要の旺盛さを反映して半導体をはじめとする電子部品関連の輸出が大幅に拡大するとともに、電気機械関連のほか、自動車など輸送用機械関連、宝石をはじめとする宝飾品関連の輸出が拡大していることが輸出全体を押し上げている。国・地域別では、中国向けは頭打ちしたものの、ASEAN（東南アジア諸国連合）周辺国向けが堅調な動きをみせるとともに、米国向けやEU（欧州連合）向けも旺盛に推移したほか、日本向けにも底堅い動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比+50.4%となり、前月（同+25.1%）から伸びが加速した。前月比も3ヵ月ぶりの拡大に転じたと試算されるなど持ち直しの動きを強めるとともに、輸出額と同様に単月ベースの輸入額は過去最高を更新した。輸出の堅調さを反映して、素材・部材関連の需要が押し上げられるとともに、商品市況の上昇が鉱物資源関連の輸入額を押し上げたことも影響している。その結果、貿易収支は▲58.57億ドルと前月（▲24.83億ドル）から赤字幅が拡大した。

図 2 TH 貿易動向の推移



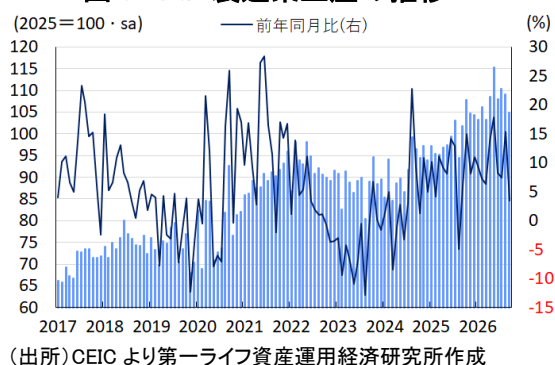
(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[シンガポール]～分野ごとにばらつきがみられるものの、全体的な生産活動に頭打ちの動きがみられる～

26日に発表された9月の製造業生産は前年同月比+3.4%となり、前月（同+15.4%）から伸びが鈍化した。前月比も▲3.9%と前月（同▲1.0%）から2ヵ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。同国では、バイオ・医薬品関連の生産が月

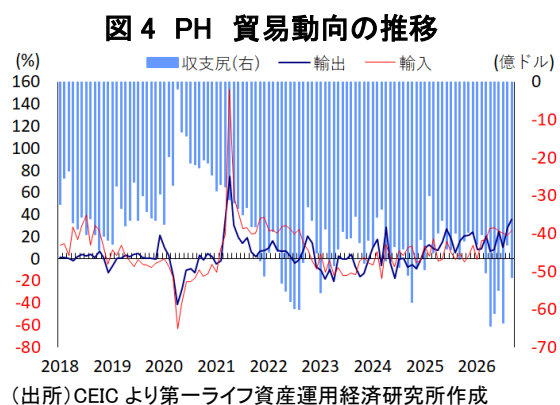
ごとに上下に大きく振れるとともに、生産動向を左右する傾向があるなか、当月は前月比+4.6%と前月（同+0.8%）から2ヵ月連続で拡大しており、持ち直しの動きをみせている。このため、バイオ・医薬品関連を除いたベースでは前月比▲5.5%と前月（同+5.3%）から3ヵ月ぶりの減少に転じており、持ち直しの動きが続いた流れに一服感が出ている。半導体など電子部品関連のほか、石油製品をはじめとする化学関連、金属関連などで生産拡大の動きがみられる一方、電気機械関連や輸送用機械関連、食料品関連をはじめとする軽工業分野で軒並み生産に下押し圧力がかかる動きがみられるなど、分野ごとのばらつきが鮮明になっている。

図3 SG 製造業生産の推移



[フィリピン]～世界的なAI・半導体需要の旺盛さを追い風に輸出は拡大、輸入も堅調で貿易赤字は拡大～

30日に発表された9月の輸出額は前年同月比+35.6%となり、前月（同+28.3%）から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヵ月連続で拡大しており、単月ベースの輸出額は過去最高を更新するなど、拡大の勢いを強めている。財別では、世界的なAI（人工知能）・半導体関連需要の旺盛さを反映して半導体など電子製品関連の輸出が大きく拡大しているほか、商品市況の高止まりを反映して鉱物資源関連の輸出額も堅調に推移している。国・地域別では、日本向けや韓国、台湾向けなどが頭打ちの動きをみせる一方、中国向けやASEAN諸国をはじめとするアジア新興国向けが底堅く推移するとともに、米国向けも旺盛な動きをみせている。一方、輸入額も前年同月比+25.7%となり、前月（同+20.9%）から伸びが加速した。前月比も2ヵ月ぶりの拡大に転じたと試算されるほか、単月ベースの輸入額は過去最高を更新するなど、輸出同様に拡大の勢いを強めている。輸出の旺盛さを反映して素材・部材関連の輸入が堅調な動きをみせているほか、主食のコメをはじめとする穀物関連や、原油などエネルギー資源関連の輸入額が拡大していることも押し上げ要因となっている。その結果、貿易収支は▲51.55億ドルと前月（▲42.94億ドル）から赤字幅が拡大している。



以 上